

第30回病診連携委員会次第

日 時 平成24年3月26日（月） 午後7時30分
場 所 浪速区医師会 会議室
出席者 浪速区医師会 : 8名
愛染橋病院 : 2名
大野記念病院 : 3名
多根総合病院 : 1名
富永病院 : 2名
浪速生野病院 : 2名
大和中央病院 : 2名
西成区医師会 : 1名
ブルーカード事務局準備室 : 1名
浪速区医師会事務局 : 1名

議 題

1. 第29回病診連携委員会報告について
前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。
2. ブルーカード事例検討等連携病院からの報告について（四天王寺病院）
今回の担当は四天王寺病院であったが急な事情で参加できなくなったため報告は次回へ持ち越しとなった。
3. 病診連携委員会のアンケート結果について
 - （1）ブルーカードとの組み合わせを考慮してもよい他の在宅患者対策について
在宅患者対策はブルーカードで十分対応できているのではないかという意見、病院からの逆紹介を受け入れる体制作りが必要という意見、単科診療所も共同した仕組みの構築が必要という意見などがあった。他に、現在のブルーカードを利用して、今回の診療報酬改定で提示された「機能を強化した支援診療所」の構成に利用してはどうかとの意見があった。今後、ブルーカードの発展にこれらの意見を反映していくものの、まずは浪速区でブルーカードを利用した「機能を強化した支援診療所」の構成を行っていくこととなった。
 - （2）今後検討する疾患別クリニカルパスの優先順位について
ブルーカードとの関連性を考慮して色々な意見が出された。優先順位の考え方も様々であり、とりあえず現在使用されている連携病院のパスを提示してもらい、浪速区版として修正して利用を検討することとなった。
4. 西成区の医療連携の現状について（西成区医師会 赤木先生）
西成区理事の赤木先生から現在の西成区の状況の説明があった。
理事会でブルーカードの取り組みを説明しても、理事に内科医が少ないこともあってインパクトが弱いという印象とのことであった。時事的に生活保護問題がホットな問題となっているのでなかなか反応がもらえないのが現状とのことであった。また、西成区には在宅医が集合するような場がなく、他地区の医療機関を受診している西成区民も多く、非医師会員にかかっているケースも多いので意見集約が困難であるとのことであった。しかし今後も継続してブルーカードの普及に協力していくとのご意見をいただき登録医の紹介をいただいた。
5. 「ブルーカードについて」に掲載する内容について

小城室長より病院マップの掲載についての提案があった。現在のところ病院マップを印刷で作って案内しているが、今後連携病院が増えることも踏まえて合理的な案内方法がないかとのことであった。連携病院すべてのマップを渡すのではなく、1次選択病院だけや1次選択病院と2次連携病院のように一部の病院マップを渡す意見や、マップ不要の意見もあった。家族などの周囲の人が病院の所在地を知らない可能性があるので、少なくとも1次選択病院のマップだけは渡す方が良いということになった。マップと病院一覧については、ホームページからダウンロードしたり、各診療所に配布する資料からコピーして渡してもらうこととなった。

また、医療機関診療情報を新しく作り直すので、各病院に以前の内容の情報をメールするので確認修正して再送してほしいと小城室長より依頼があった

6. ブルーカード（診察券サイズ）について

ブルーカード登録患者が持つIDカードのデモ3案をレイクリエーションに提案してもらった。多数決の結果、ベースとなる1案を決定し、それに部分的な修正を加えることで採用となった。

7. その他

議長より「i scan mail」を使えば、PCなしでもiPadから色々な情報をスキャンし、アップすることができるようになっていたとの説明がされた。

小城室長より育和会記念病院の連携病院参加説明の報告がなされた。前向きな回答をいただいているものの、現在育和会記念病院はリニューアルの真最中であり、参加や参加の時期などの返事については、少し猶予をいただきたいとのことであった。

現時点でのブルーカードの登録件数は、浪速区302件、他地区29件の合計331件、現在までの使用状況は、浪速区171件、他地区4件、3月の稼働件数は5件と事務局より報告があった。特に問題報告はなかった。

次回会議予定 平成24年4月23日（月）午後7時30分～